

子どもの意欲を引き出し、探求心を育む番組活用

北海道札幌市 社会福祉法人にれ福祉会 東月寒にれ保育園 副園長 松本 優雅

保育園（年中クラス） しぜんとあそぼ／カガクノミカタ

番組の特徴

身近な生き物の生態を観察して、自然の不思議や命の輝きを感じることができる。（しぜんとあそぼ）
何気ないものの中の不思議を考察し、学ぶ力を育てる。

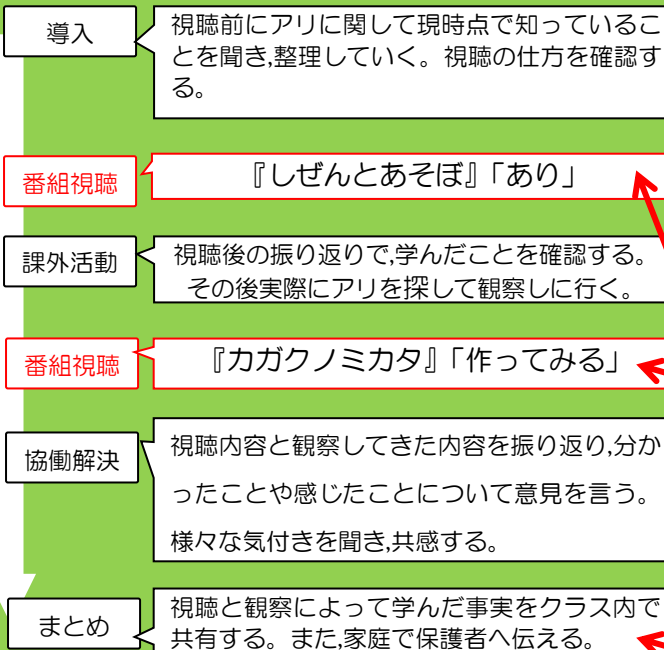
研究の概要

身近な生き物であるアリに焦点を当て、生態と個体の特徴それぞれを学べる番組の視聴と課外活動を連続させた。子どもたちの好奇心や探求心を実践の中で高めながら、意欲的に活動を行うことができた。その結果、生命がもつ価値や事実を再認識するとともに、集団で学び、活動する楽しさを感じながら、積極的に活動に参加する姿が多く見られた。

活動デザイン

活動：アリの観察

目標：アリの生態や特徴に触れ、探求心を育む



番組や関連動画クリップの活用意図

身近な生き物や自然がもつ生命を感じる

子どもたちが番組視聴を通して、普段接している何気ない生き物や自然の中に尊い生命が宿っていることに気付かせ、その生命の不思議に探求心をもたせる。

集中と共感の両方を実践できる番組視聴

集中かつ共感しながら視聴できることで、「観察してみたい」という子どもの意欲を高める。

活動デザインにかかわる保育士の工夫

意欲につなげる環境づくり

「触角」等の用語そのものが難しいものや、番組で詳細に触れられてはいないがそのままでは理解が難しい事象に関する補助教材として、アリに特化した図鑑を用意して説明を行った。また、実際に生態の観察を行った後で、個体の特徴を学べる番組視聴を連続して行うことで、子どもの意欲や関心をさらに高める。

保護者とのコミュニケーション

活動への理解と報告のために、あらかじめ活動内容を説明し、事後に行うアンケートの協力を依頼するとともに、家庭でも活動に関するコミュニケーションを促す。



生き生きと学ぶ子どもの姿

保護者の評価から（アンケート結果）

- 活動後から屋外で虫を見つけた際に話してくれる。
- 今度は家の周りでも探したいと言っていた。
- アリの種類について詳しく話していた。

保育士による分析と評価

- アリを生命のある生き物と認識したこと。
- 昆虫を発見するとまず観察するようになった。
- ほかの虫や生き物への関心が高まり、「他の虫はどうなっているんだろう」とアリ以外の昆虫への意欲をもつ姿や、園庭でもアリの観察を行おうとする姿が見られる。

実践を終えて

外を歩けばいつでも目に入っていたアリの生態や個体の特徴ごとに音楽やナレーション、電子顕微鏡の映像などで多角的にとらえることで、子どもたちの認識が大きく変容した。図鑑や絵本に加えて、保育教材として放送番組を取り入れたことによる大きな効果といえる。ケースやテーマごとに選択肢やアプローチを模索するとともに多くの実践事例を学ぶことで子どもが生き生きと学べる保育デザインの一助となっていくと感じた。